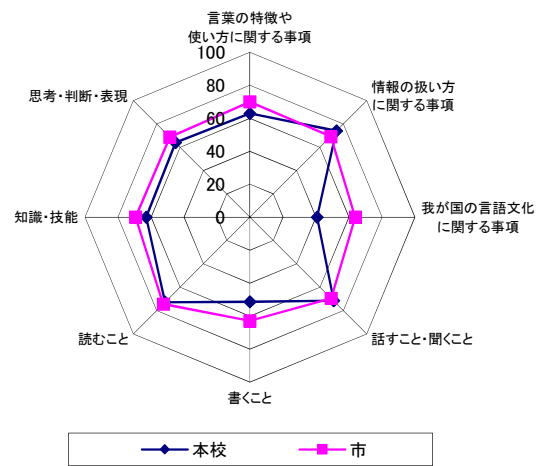


宇都宮市立海道小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	63.0	69.9	72.3
	情報の扱い方に関する事項	74.1	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	40.7	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	71.6	69.5	71.5
	書くこと	51.2	62.8	67.1
	読むこと	72.8	74.4	73.7
観点別	知識・技能	63.0	69.4	71.9
	思考・判断・表現	64.0	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

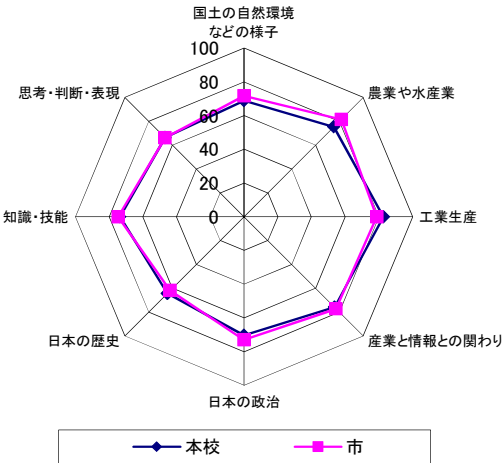
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は63.0%で、市の平均より6.9ポイント低い。 ○漢字を読む問題の正答率は全てにおいて市の正答率を上回り、敬語の問題の正答率は100%であった。 ●漢字を書く問題では市の正答率を下回った。また、段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題の平均正答率は48.1%で、市の正答率を17.1ポイント下回った。	○良質な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きでは、テストや自主学習において繰り返し復習させることで基礎力を伸ばしていく。また、現学年の配当漢字だけでなく、既習学年の内容についても定期的に復習を行っていく。 ・熟語の成り立ちや同じ読みの漢字の使い分けについて意図的に振り返る機会を設け、確実な定着を図っていく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は74.1%で、市の平均より4.9ポイント高い。 ○情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理したり、目的に応じて文章を簡単に書いたりする問題の正答率は、ともに市の正答率を上回った。文章の情報を整理する問題においては、正答率が88.9%で、市の正答率を5.1ポイント上回った。	・日頃から、新聞記事や図書資料、インターネットなどから様々な情報にふれる機会を増やしていき、必要な情報を読み取りたり情報をもとに自分の考えをまとめたりする学習を通して、情報を整理する力を育てていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は40.7%で、市の平均より23.1ポイント低い。 ●語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語についての理解を問う問題の正答率は40.7%で、市の正答率を23.1ポイント下回った。	・語句について学習する際には、その由来や背景を捉えさせたり、生活と結び付けて考えさせたりすることで、知識・技能の定着を図っていく。 ・語句の由来や背景を自ら調べる活動を取り入れ、興味関心を高められるようにしていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は71.6%で、市の平均より2.1ポイント高い。 ○インタビューを聞き、意図に応じて質問を工夫する問題の正答率は74.1%で、市の正答率を7.9ポイント上回った。 ●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題の正答率は63.0%で、市の正答率を3.1ポイント下回った。	・授業だけでなく、学校生活の様々な場面对話的な活動を取り入れ、相手の考えをよく聞くとともに、自分の考えを分かりやすく相手に伝えられるようにしていく。 ・メモの取り方について丁寧に指導し、話し手の意図を正確に聞き取り、まとめられようにしていく。
書くこと	平均正答率は51.2%で、市の平均より11.6ポイント低い。 ○情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書く問題の正答率は59.3%で、市の正答率を4.7ポイント上回った。 ●指定された長さで文章を書く問題の正答率は44.4%で、市の正答率を23.8ポイント下回った。	・作文や日記指導など、日常的に書く活動を積極的に取り入れ、書くことに対する抵抗感や苦手意識を軽減するための指導を継続していく。 ・指定された条件に応じて書くことができる力を育てていくために、様々な条件を提示しながら文章を書かせ、内容に応じて段落を意識させながら自分の意見を入れて文章を書けるようにしていく。
読むこと	平均正答率は72.8%で、市の平均より1.6ポイント低い。 ○物語において登場人物の心情を問う問題の正答率は100%であった。また、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げているかを問う問題では、正答率が81.5%で、市の正答率を2.8ポイント上回った。 ●説明文の文章構成を捉える問題についての正答率は44.4%で、市の正答率を16.9ポイント下回った。	・国語の授業において、今後も文章を丁寧に読み取る活動を継続して行っていく。文章全体において、指示語や接続語などに注目しながら段落相互の関係を捉え、文章構成を理解できるようにしていく。 ・朝の読書の時間や「うちどく」を積極的に推奨し、物語だけでなく、説明文をはじめとした様々な分野の本に親しむ機会を増やしていく。

宇都宮市立海道小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	68.9	71.6	67.5
	農業や水産業	75.3	81.5	82.1
	工業生産	82.7	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	75.9	77.2	68.2
	日本の政治	70.4	73.1	77.9
	日本の歴史	64.4	62.0	65.8
観点別	知識・技能	73.6	74.6	74.5
	思考・判断・表現	66.3	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

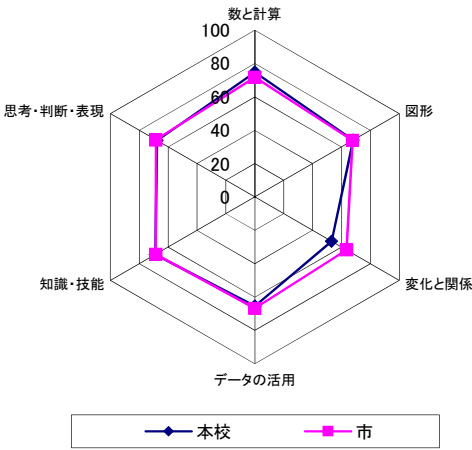
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は68.9%で、市の平均より2.7ポイント低い。 ○自然災害から生活を守る設備(防潮堤)について理解しているかを問う問題では、正答率が92.6%で市より10.6ポイント高い。 ●地図から国や河川名を答えることに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・世界の国土、日本の国土など、地理的分野の学習の終末に、都道府県の位置、山脈、河川など、総合的な問題に取り組ませることで、学習したことを多面的に捉えることができるようにしていく。 ・メルカトル図法、モルワイデ図法、地球儀など、様々な種類の地図に親しむ機会を設け、どの種類の地図でも読み取れる見方を育てていく。
農業や水産業	平均正答率は75.3%で、市の平均より6.2ポイント低い。 ●都道府県の位置と農産物の産地の理解、農業施設や仕組みへの理解に課題が見られる。	・米、果物の生産量、畜産物の飼育数など種類別に学習した後、都道府県の位置と合わせて総合的に判断する力を身に付けられるようにしていく。
工業生産	平均正答率は82.7%で、市の平均を4ポイント上回った。 ○日本の輸出品の資料を読み取る問題の正答率は88.9%で、市より7.4ポイント高く、正確に資料を読み取る力がついている。	・工業品の名称や輸送手段などに合わせて、その目的やメリット・デメリットなどにも目を向け、思考力を育てるようにしていく。
産業と情報との関わり	平均正答率は75.9%で、市の平均よりやや低い。 ○資料に着目して、コンビニエンスストアの発注システムについて捉え、判断する問題では、市の正答率を3.9ポイント上回った。	・インターネットだけでなく、様々なメディアの名称や特徴を捉えることができるように工夫する。
日本の政治	平均正答率は70.4%で、市の平均より2.7ポイント低い。 ○日本国憲法について答える問題では、市の正答率を1.2ポイント上回り、理解している様子が伺える。 ●税金について理解しているかを問う問題では、正答率が70.4%で、市より10.4ポイント低い。	・基礎・基本の学力が定着するよう、振り返る場面を計画的に設け、知識の定着を図るようにしていく。 ・国会や内閣、裁判所、選挙に関するニュース、時事の話題を取り上げることで、実感をもって学ぶことができるようにしていく。
日本の歴史	平均正答率は64.4%で、市の平均を2.4ポイント上回った。 ○歴史領域への関心の高さが伺える。 ●指定された言葉を使って回答する問題への課題が見られる。	・出来事が起こった年だけでなく、その理由や背景を考えることで、思考力・判断力・表現力を育てるようにしていく。 ・基礎・基本の学力が定着するよう、振り返る場を計画的に設けて知識の構築を図るようにしていく。

宇都宮市立海道小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	74.7	71.8	76.2
	図形	68.1	67.7	67.8
	変化と関係	53.1	63.4	62.7
	データの活用	65.4	66.7	61.5
観点別	知識・技能	68.9	68.6	70.7
	思考・判断・表現	67.8	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

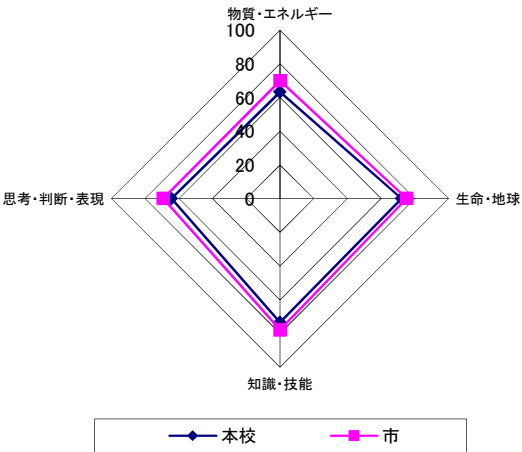
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、74.7%で市の平均より2.9ポイント高い。 ○小数や分数の計算の正答率は市の平均より高い項目が多く、文字を使った式が表す場面を選ぶ問題の正答率は市の平均を12.8ポイント上回った。 ●分数の除法の文章問題にあった式を選ぶ問題の正答率は、市の平均より11.7ポイント低く、文章から数量の関係を読み取り正しく式に表すことに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎・基本の内容を確実に定着させるため、計算ドリルやAIドリルを活用しながら、既習の内容の復習を朝の学習や家庭学習の中で繰り返し行っていく。 ・授業の中で、文章問題の題意を正しくつかみ、「どのように問題を解決していけばよいのか」という見通しをもたせ、数直線や図に表しながら自分の考え方を分かりやすくまとめたり、説明したりする場を多く設定する。
図形	平均正答率は、68.1%で市の平均とほぼ同じである。 ○合同な三角形を作図する問題では、正答率が92.6%で市の平均を7.4ポイント上回った。 ●線対称な正八角形の図形から対称の軸が何本あるかを求める問題では、正答率が40.7%で市の平均を15.2ポイント下回った。	・身のまわりの図形に関心をもたせ、日常生活と関連させながら、図形についての理解を深め、学習内容の定着に努める。 ・具体物やタブレット等を操作しながら、対称の軸を見つける活動などを取り入れ、図形についての理解を深めていく。
変化と関係	平均正答率は、53.1%で、市の平均より10.3ポイント低い。 ●図から面積と数の割合を求め、どのうさぎ小屋が最も混んでいるかを考察する問題は、正答率が66.7%で市の平均を13.3ポイント下回った。	・単位量あたりの大きさについて、日常生活の場面にあった問題等で見通しを持たせ、数直線や図を用いて考えたり、なぜそうなるのかを説明したりする活動を取り入れることで理解を深めていく。
データの活用	平均正答率は65.4%で、市の平均よりも1.3ポイント低い。 ○値に0がある連続量の平均を求める問題では、正答率が85.2%で市の平均より4.9ポイント高い。 ●ヒストグラムを正しく読み取る問題は、正答率が77.8%で市の平均を6.9ポイント下回った。	・身の回りの事象などから設定した問題について、目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を考察したりする力を養っていく。

宇都宮市立海道小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	63.2	69.9	67.8
	生命・地球	72.1	75.1	73.7
観点別	知識・技能	73.4	77.8	78.4
	思考・判断・表現	64.4	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、63.2%で、市の平均を6.7ポイント下回った。 ○「ふりこのきまり」の問題について、ふりこのきまりから、メトロノームのテンポを速くする方法を推測する問題では、市の正答率を8.8ポイント上回った。 ●「物のとけ方」「水よう液の性質」の問題について、どの問題でも市の正答率を下回った。特に、溶け残った食塩を全て溶かすにはどうすればよいかを答える問題では、市の正答率と比べると22.9ポイント低い。	・観察・実験において、「なぜ」から生まれるねらいを明確にすることで、問題意識をもって進んで調べようとする意欲をもたせるようにする。また、実感を伴った学習活動を展開し、結果をもとに考察させ、理解を深められるようにする。 ・観察・実験時に使う用語や用具の操作、実験方法など、基礎・基本の定着を図るとともに、めあてに即した振り返りに力を入れる。また、学習して得られた力を、日常生活に活用できるような指導に努める。
生命・地球	平均正答率は、72.1%で、市の平均を3ポイント下回った。 ○「植物のつくりとはたらき」の問題について、茎を縦に切ったときの断面の、水の通リ道のようなすを理解しているかを問う問題では、市の正答率を14.6ポイントと、大きく上回った。 ○「動物のからだのつくりとはたらき」の問題について、酸素や二酸化炭素以外に、空気中に含まれている気体を理解しているかを問う問題では、市の正答率を7.4ポイント上回り、96.3%という高い正答率であった。 ●「植物の発芽と成長」の問題について、どの問題でも市の正答率を下回った。特に正しい予想と実験の結果を結びつける問題では、市の正答率と比べると15.1ポイント低い。	・課題のねらいや観察・実験の方法を正しく捉えさせ、十分に自分の予想や仮説を立ててから観察・実験等に臨ませる。また、結果から自分なりの考えを導き出せるよう、考察する時間の確保に努める。 ・実際の観察・実験が困難な単元や、継続的な観察・実験が効果的な単元は、引き続き模型やICT機器等を活用し、分かりやすい授業展開に努める。 ・今学習していることが、自分の生活に結びついていることを振り返らせる場を意図的に設定し、科学的事象への興味関心を高めることで理科の学習に対する意欲を高めたい。

宇都宮市立海道小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
定着を図るための学習活動の充実	単元及び授業の導入場面等で、前学年までの内容や既習事項を確認する機会を設定したり、視聴覚教材を活用し進んで学習に取り組むような学習活動を工夫したりすることで、学習内容の定着を図る。	算数の「数と計算」の領域では市の平均を2.9ポイント上回り、小数や分数の計算や文字を使った式が表す場面を考える問題の正答率は市の平均よりも高かった。国語の漢字を読んだり、敬語を正しく使ったり、登場人物の心情について、描写を基に捉えたりする問題の正答率は高かった。しかし、「書くこと」の領域では、市の平均を11.6ポイント下回り、指定された長さで文章を書くことなどに課題がある。
対話的な学びを通して、共に高め合える集団作り	協働的な学び合いを通して、他者の意見や考えに触れ、自分の考えを見直す活動を大切にすることで、深い学びの実現を図る。	「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」は、1・4・5・6年生は市の肯定割合を上回っているが、下回っている学年もあった。また、「根拠をあげながら話すこと(3年生以上)」については、肯定割合が低い。
家庭学習への取組	「家庭学習の手引き」や「家庭学習記録カード」等を活用し、計画的に学習に取り組むよう働きかけをするとともに、個別指導により、家庭学習の充実を図る。	「宿題はきちんとやっている」の肯定割合は1年生が100%、2年生は97.5%であった。3年生以上では、「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」「自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」の肯定割合は、市の平均を大きく上回った学年もあるが、下回っている学年もあり、学年によって差があった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・国・県・市の調査結果から、4・5・6年生の「書くこと」については、平均正答率が低い。また、児童質問紙調査において、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」と回答した児童が多かった。視写プリントや作文・日記指導等を継続していくことで、日常的に書く活動を積極的に取り入れ、書くことに対する抵抗感や苦手意識を軽減するための指導を継続していく。また、指定された条件に応じて書くことができる力を育てていくために、様々な条件を提示しながら、目的をもって文章を書く機会を意図的に取り入れていく。

・「話すこと・聞くこと」についての平均正答率は、学年によって差があった。今後、対話的な学びを意図的に取り入れたり、言語活動の充実や表現力の育成を図ったりしていきたい。

・家庭学習について、「宿題をきちんとやっている」「自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」の肯定割合は市の平均を上回っている学年が多い。学力の定着を図るためにも、今後も継続して宿題の内容を充実させたり、効果的な自主学習の取組みについての例を提示したりするなどして、家庭と連携をしながら家庭学習の充実に努めていきたい。